



写真について問い、
他者と共有し、
ともに深く考える場。

2018 3/24 (土)

18時～19時30分 (開場17時30分)

会場 | 平間写真館 TOKYO



時間内出入り自由

参加無料

公開シンポジウム 2018 @ 平間写真館 TOKYO

「写真 × 哲学」

写真について問い、他者と共有し、 ともに深く考える場。

スタンドアローンな作品鑑賞では生まれえない、有機的な交わりから生まれる創造性。

写真／芸術を専門とする者と専門としない者との視点の違いは何でしょうか。何をもちて作品の良し悪しを判断しているのでしょうか。ここに発表するメンバー4人は、2017年4月から2018年2月までの約1年間、カントの『判断力批判』を精読し、写真とは何か、写真はどのように美にかかわるのかを議論してきました。このたびの企画では、そこで得たアイデアをもとに制作した作品と文章を公開し、来場者のみなさまとともに、創作活動における根本的な問いについて、いつもよりも高い視点に立って考えてみたいと思います。

推薦文：梶谷真司（哲学者、東京大学教授）

写真はたんに視覚的なものではありません。何をどのように撮るかは、conceptとidea、すなわち言語と概念によります。他方、哲学はたんに概念的なものではありません。何をどのように捉えるかは、imageとperspective、すなわち表象と視点によります。

「写真 × 哲学」は、一見遠く離れているように見えながら、実はきわめて近接しているこの二つの営みを交差させます。その試みは、あらゆる創作のための斬新でありつつ原点でもあるような方法を実践的に学ぶ機会になるでしょう。

公開シンポジウム2018 @ 平間写真館 TOKYO
「写真 × 哲学」

2018

3 / 24 (土)

18時～19時30分（開場17時30分）

会場 | 平間写真館 TOKYO

時間内出入り自由

参加無料

「写真 × 哲学」
東京工芸大学写真学科 圓井義典研究室 × クロス・フィロソフィーズ(株) 共催。写真の現場にふさわしい哲学の実践を試みる団体。20世紀前葉において、学問の専門化と細分化に警鐘をならしたA・N・ホワイトヘッドの研究をとおして知り合った吉田幸司と圓井義典とが共同で2015年に立ち上げる。

「写真 × 哲学」メンバー

圓井義典 Yoshinori Marui

写真家。東京工芸大学写真学科准教授。展覧会に「点・閃光」(個展、PGI、2016年)、「光をあつめる」(個展、PGI、2011年)、「沖縄プリズム1872-2008」(グループ展、東京国立近代美術館、2008年)などがある。

吉田幸司 Koji Yoshida

博士(哲学)。日本学術振興会特別研究員PD(東京大学)を経て、現在、クロス・フィロソフィーズ(株)代表取締役。上智大学客員研究員、東京女子大学非常勤講師などを兼任。共著書に*Beyond Superlatives* (Cambridge Scholars Publishing)、「理想—特集:ホワイトヘッド」(理想社)などがある。

岸剛史 Takeshi Kishi

写真家。東京工芸大学非常勤講師。

篠田優 Yu Shinoda

写真家。ギャラリー「Alt_Medium」共宰。

菅泉亜沙子 Asako Sugaizumi

写真家。東京工芸大学助手。

協力: はしもとゆか スタイリスト



平間写真館 TOKYO

東京都世田谷区池尻2-7-12 B1

Tel 03-6413-8400

東急田園都市線 三軒茶屋駅北口Bより徒歩10分
池尻大橋駅南口より徒歩10分

〔本企画に関する問い合わせ先〕

東京工芸大学 芸術学部写真学科 圓井義典研究室内「写真 × 哲学」事務局

Tel 03-5371-2692 office-pp@pht.t.kougei.ac.jp

主催: 「写真 × 哲学」 会場協力: 平間写真館 TOKYO